



和野 (わの)※方言名: ワノ

奄美大島の空の玄関「奄美空港」がある和野集落。奄美空港は縄文時代後期から平安時代前期までの遺跡群「長浜金久遺跡」の上に建っています。空港建設のため埋め立てられた海には、集落背後の山から降りてきた神が鎮座するフウシと呼ばれる大岩があったと言われていいます。



石敢當

石敢當は中国の影響を受け琉球から伝わったとされる。百鬼を鎮め、災を圧するという石敢當は和野アガリのT字路にもある。

古老は窪みを有する長方形の石が電柱の傍にあり、その石の窪みを利用して貝を割っていたら当時の古老から大変怒られたという。この石敢當は世代を超えてシマを見守っている。



聖地(有雲ブラレ・和野フーデ・和野金久ブラレ)

和野集落の西側はずれには家内安全を祈願する和野地域の聖地が3か所ある。各地域、家ごとのそれぞれが旧暦9月9日にガンタテ(願立て)を行い、家内安全と無病息災を祈願した。和野フーデはテックワアとも呼ばれ、ミキを入れたハンド(甕)を担いで祈願を行った。現在でも、毎年、種下ろしに合わせて集落独自で慰霊祭を行っている。



フグスク

和野は「大城」「前城」の字名があり、地名でもテンヤマ、トノチュダ、シイザト、フグスクなどがあり中世城郭との関連が考えられる。

海上交通でも喜界島と和野の航路があったことから海路、陸路の重要拠点施設としての役割が考えられており、今後の調査が待たれる。



ソテツバテ

和野集落は有雲川、後川、前川と三つの川が流れている。東側を海に面し、西側は谷間にあるマタダ(谷戸)が多く、その斜面や小高い森はほとんどソテツバテだった。ソテツは捨てる場所がないと言われ、葉は竈の焚き付け、水田の緑肥とし、ナリ(実)と幹からはデンプンが取れる。

現在は、外来のカイガラムシの被害により、ソテツは全滅している。



長浜金久遺跡群

奄美空港は、砂丘と海岸リーフを埋め立ててできた。砂丘地は発掘調査によって縄文時代相当期から古代までの古砂丘が形成され、そこに先人たちが生活した小規模遺跡群が発見された。

注意してみると空港出口右側の植栽に「長浜金久遺跡群」の石碑があるが気付く人はほとんどいない。



ハマジョグチ

海に面するシマには浜に降りる「ハマジョグチ」がある。和野集落には憩いの場になっていたハマジョグチが集落中央にある。「昔はサンゴの石垣の向こうにはガジュマル、ユナギ、そしてアダンなどの植物が覆い、トンネルになっていた。外は砂浜と海がまぶしかった」と古老は懐かしい風景を話す。



ヤマックワ(飲料水)

シマ(集落)における生活用水と飲料水の確保は、集落形成の絶対的条件の一つに挙げられる。古老は「飲料水は集落から少し離れ、集落南側を流れる前川の上流のヤマックワから汲んでいた。子供たちは泳ぎ、女性たちがバケツをオホと呼ばれる担ぎ棒を肩に、2つのバケツのバランスを取りながら担いでいた」と話す。現在は、草に覆われ上ることができない。



和野の海岸とリーフ

和野長浜は沖合のリーフが発達し、白い砂浜が約400mも続く自慢の海岸である。先史古代からリーフ内の魚類を採集してきた。リーフは今も昔も自慢の「海の畑」としての役割を果たしている。そのことを裏付けるかのように、71か所のリーフに名前がついている。